

はじまりの美術館プレスリリース

2020/11/12

第4回福島県障がい者芸術作品展「きになる⇔ひょうげん 2020」開催！

第4回福島県障がい者芸術作品展「きになる⇔ひょうげん 2020」開催！

はじまりの美術館では、福島県より委託を受け福島県障がい者芸術作品展「きになる⇔ひょうげん 2020」を開催します。11月21日（土）よりはじまりの美術館で開催し、会期中様々なイベントを開催します。

なお、11月16日には、審査員の日比野克彦氏・川延安直氏・川内有緒氏を招き、弊館館長の岡部とともに作品審査をし、入選、特選、入賞者の決定を行います。（一般には非公開）ぜひご取材ご検討のほどよろしくお願いたします。



展覧会概要

タイトル：第4回福島県障がい者芸術作品展「きになる⇔ひょうげん 2020」

会場：はじまりの美術館（福島県耶麻郡猪苗代町新町4873）

会期：11月21日（土）～1月17日（日）10:00～18:00 ※火曜休館 12/29～1/5 年末年始休館

観覧料：無料

主催：福島県（委託先：社会福祉法人安積愛育園）

審査員：日比野克彦（美術家・東京藝術大学美術学部長）

川延安直（福島県立博物館 学芸課長）

岡部兼芳（はじまりの美術館 館長）

ゲスト審査員：川内有緒（ノンフィクション作家）

作品の審査会は11月16日（月）14:00ごろから、はじまりの美術館にて行います。非公開イベントのため、ご取材ご希望の方は、はじまりの美術館（otoiwase@hajimari-ac.com）までお問い合わせください。

はじまりの美術館プレスリリース

2020/11/12

第4回福島県障がい者芸術作品展「きになる⇄ひょうげん 2020」開催！

展覧会コンセプト

このたび福島県は、第4回福島県障がい者芸術作品展「きになる⇄ひょうげん 2020」を開催いたします。本展では「きになる」をひとつの基準に、福島県内から作品を募集しました。「きになる」と「ひょうげん」のあいだにある「⇄」は、作る人、支える人、見つける人など、さまざまな関係性を表しています。過去3回の開催を通して、「形にならない表現行為」による応募も見られ、少しずつ「きになる」視点が広がっているようにも感じます。

障がいのあるなしにかかわらず、私たちはなにかきになった物事にこだわることがあります。そんなこだわりから生まれる表現は、見る人にも何かを感じさせる力があると思います。

この作品展に来ていただいた皆さまにも、「どうしてこの表現が生まれたんだろう」「作者は何が気になったんだろう」「とにかくなんだか気になる」など、きになる表現を見つけていただければ幸いです。

そして本展を通して、作者のことや目の前にある表現にきになることが、「障がい」について、考えや理解を深める場になることを願います。

イベントスケジュール

11月21日(土) ※16時閉館

14:30~15:00 ギャラリートーク

17:00~19:00 オープニングトークイベント「表現のまわりに目を向ける」※オンライン開催

新潟県、山形県、福島県の3県は連携して障がいのある方の芸術活動の推進を行なっています。各県それぞれ視点の異なる公募展を開催しており、それぞれの話から障がいのある方の表現について考えていきたいと思います。

ゲスト:坂野健一郎(新潟県アール・ブリュット・サポート・センターNASC)、武田和恵(やまがたアートサポートセンターら・ら・ら)

進行:小林竜也(はじまりの美術館)

12月19日(土) ※16時閉館

17:00~19:00 トークイベント「きになるものの伝え方、届け方」※オンライン開催

いわき市地域包括ケア推進課による社会包摂に関わる様々なプロジェクトのデザインを行う「igoku」。そのアートディレクターである高木市之助さんと、第一回から本作品展のグラフィックデザインを担当する佐藤洋美さんをお招きし、伝え、届けるためのデザインの役割についてお話いただきます。

ゲスト:高木市之助(デザイナー)、佐藤洋美(本展デザイナー)

進行:小林竜也(はじまりの美術館)

はじまりの美術館プレスリリース

2020/11/12

第4回福島県障がい者芸術作品展「きになる⇄ひょうげん 2020」開催！

1月16日(土) ※16時閉館

17:00~19:00 「審査員トークイベント」※オンライン開催

審査員4名の方々に今回の応募作品のエピソードや受賞作品、各審査員賞の作品について、どこがきになったのかなど審査講評を交えてお話いただきます。

登壇者: 日比野克彦、川延安直、川内有緒

進行: 岡部兼芳

1月17日(日)

11:00~12:00 表彰式、受賞者トーク

表彰式および受賞者のみなさまから作品についてお話を伺います。

審査員について

ひびのかつひこ
日比野克彦 (美術家・東京藝術大学美術学部長)

1958年岐阜県生まれ。東京芸術大学大学院修了。

大学在学中にダンボール作品で注目を浴び、国内外で個展・グループ展を多数開催する他、パブリックアート・舞台美術など、多岐にわたる分野で活動中。近年はオリンピックパラリンピック東京大会に向けたリーディングプロジェクト「TURN」の監修者を務める。



かわのべやすなお
川延安直 (福島県立博物館 副館長 (兼) 学芸課長)

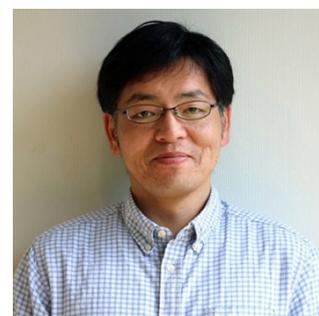
1961年神奈川県生まれ。筑波大学大学院芸術学修士修了。

岡山県立美術館を経て、現在福島県立博物館副館長(兼)学芸課長。「福島芸術計画×ART SUPPORT TOHOKU-TOKYO」や「ライフミュージアムネットワーク」など、福島県内のさまざまな文化発信活動に携わっている。



おかべたかよし
岡部兼芳 (はじまりの美術館館長)

1974年福島県生まれ。共同作業所支援員、中学校教員を経て、2003年社会福祉法人安積愛育園入社。障害者支援施設にて生活支援員として働く中で、知的に障害のある利用者の表現活動をサポートする「unico(ウーニコ)」に携わる。2014年6月より現職。



はじまりの美術館プレスリリース
2020/11/12

第4回福島県障がい者芸術作品展「きになる⇔ひょうげん 2020」開催！

ゲスト審査員：川内有緒（ノンフィクション作家）

生まれ変わったら冒険家になりたいと願うノンフィクション作家。アメリカ、フランス、日本を転々としながら12年間国際協力分野で働いた後に、フリーランスの物書きに。東京を拠点に評伝、旅行記、エッセイなどを執筆し、著作に『パリでメシを食う。』『空をゆく巨人』ほか。



本展の見どころ

1. 福島県内の「きになる」表現を一挙に展示！

第4回となる本作品展では、9月20日（日）～11月8日（日）まで福島県出身または在住の障がいのある方等から作品の公募を行いました。約360点の作品の応募があり、「きになる」を軸に審査を行い、福島県知事賞、きになる⇔ひょうげん賞、また、審査員の方にはそれぞれが一番気になった作品をそれぞれ審査員賞として選んでいただきます。どんな作品が集まり、展示されるのかぜひご注目ください！

2. 新潟県、山形県の「きになる」作品も紹介！

障がい者芸術活動推進に向けて連携している新潟県、山形県からも「きになる」作品を選出いただき、ゲスト作品として公募展会場に特別展示します！3県の連携をさらに深める機会になればと思います。会期初日には、新潟県・山形県で行われている活動の実践報告も行われます。

3. 来場者の「きになる」作品からオーディエンス賞を決定！

来場者が一番「きになる」作品を選び投票するための「きになる木」が、本展デザイナーにより今年リニューアルします。開催期間で一番「きになる」が集まった作品をオーディエンス賞として会期最終日に発表します！



※昨年度の作品審査会の様子（日比野克彦氏・川延安直氏・岡部兼芳氏）

主催：福島県（委託先：社会福祉法人安積愛育園）

問い合わせ先：社会福祉法人安積愛育園 はじまりの美術館

（企画担当：岡部、小林）

〒969-3122 福島県耶麻郡猪苗代町新町 4873 TEL/FAX：0242-62-3454

Mail：otoiawse@hajimari-ac.com WEB：<http://www.hajimari-ac.com/>

展覧会公式ホームページ：<http://kininaru-hyogen.info/>